

博士論文の審査結果の要旨

専攻	保健医療学	分野	看護学
学籍番号		院生氏名	高山 直樹
通学キャンパス			
論文題目	重症心身障害児(者)施設における呼吸器感染予防策の確立に関する研究 — 呼吸器感染予防に関する戦略「PRIME Strategy(仮称)」の検証 —		
審査結果(枠で囲む)	合格		不合格
<p><審査結果の要旨></p> <p>1. 主論文の概要</p> <p>1) 研究概要: 重症心身障害児(者)は、原疾患および高齢化の影響もあり、呼吸器感染症に脆弱であり、死亡に至るリスクもある。そこで重症心身障害児(者)施設では、呼吸器感染症のアウトブレイクを防止するために、感染徴候のある者の立ち入りを止めたり、適時にアクティビティの休止を行う必要がある。一方で、重症心身障害児(者)の発達の促進およびQOLを確保するためには、アクティビティの休止期間は最短でなければならない。そこで高山らは、重症心身障害児(者)の発達の促進およびQOLを確保しつつ、呼吸器感染症のアウトブレイクを防止するために、職員および面会者の呼吸器症状スクリーニングと重症心身障害児(者)に対する呼吸器症候群サーベイランスの同時進行による「Preventing Respiratory Infections and Maintaining therapeutic Education(PRIME)Strategy(仮称)(呼吸器感染症アウトブレイク防止と療育活動継続のための戦略)」を考案した。本研究の目的は、この(PRIME)Strategy(仮称)の有効性を検証することである。重症心身障害児(者)単施設の2病棟(計110床)を対象に、先行する6ヶ月間の観察期間(対照群)の後、1年後の6ヶ月間に介入を実施した(介入群)。対照群104名、介入群98名の重症心身障害児(者)を分析対象とした。結果、介入群の呼吸器スクリーニングでは、職員へのスクリーニング実施13,658回のうち有症状は1,863回(13.6%)で、このうち勤務中止が確認されたのは5回であった。重症心身障害児(者)に対するサーベイランスでは、対照群と介入群の期間中の呼吸器感染症による死者数は3名と0名であり、集団療育活動全面中止日数(11日 vs 11日)、集団療育活動の最長中止日数(7日 vs 5日)、入院中止日数(16日 vs 0日)、面会中止日数(23日 vs 0日)と、入院・面会中止期間の短縮が得られた($P<0.001$)。また導入のための追加費用は、276,576円であった。本研究によって、「PRIME Strategy(仮称)」の有効性が示されたと結論した。</p> <p>2) 研究方法: この種の研究では厳密な意味での介入群を設けるのは困難であるため、限界はあるものの先行した観察期間を設けるという工夫が見られた。対象となる重症心身障害児(者)は、研究の説明に同意するための知的機能・認知機能に障害があるため、親族を代諾者とみなし、オプトアウトが可能な方法をとった。本研究は2017年10月から2019年3月までに行われた研究の二次解析であるため、二次解析のために改めて研究倫理審査委員会の承認を得た。解析に生存時間解析や費用効果分析などのチャレンジがみられた。結果は限定的であったことをふまえた論述であり、また研究論文の作法に則った適切な論文形式と認められた。</p> <p>3) 知見の新規性と価値: 本研究の新規性は、療育活動継続を損なわずに呼吸器感染症アウトブレイクを防止するための戦略プログラムを重症心身障害児(者)施設に導入して検証した点にある。今後、全国の重症心身障害児(者)施設に展開するとともに、高齢者施設などへの導入および各ステークホルダーのQOLに貢献する可能性のある研究として、高く評価できる。</p> <p>2. 審査経過:</p> <p>審査会は3回開催し、初回審査で大幅な論文形式の編集を求めたところ、適切に修正された。</p> <p>3. 口頭試問の結果:</p> <p>口頭試問において適切に応答した。</p> <p>4. 合否結果:</p> <p>以上の結果から、審査会の審査員全員は本論文が著者に博士(看護学)の学位を授与するに十分な価値があるものと認めた。</p>			
論文審査担当者	<p>主 査 上別府 圭子</p> <p>副 査 井上 智子</p> <p>副 査 平野 大輔</p>		